

## 「イギリス文学史」の授業評価報告書

英語教育講座 竹永雄二

### 1. 授業の目的

英語教師の教養として、イギリス文学の歴史についての基本的知識を得る。特に **Shakespeare** (劇)、**Dickens** (小説)、**Wordsworth** (詩) を中心とする主要な作家の作品の抜粋を読み、イギリス古典文学作品に対する鑑賞力を高める。さらに多様な作家の多様なものの見方とその表現力への理解を深める。

### 2. 到達目標

(1) 英語教師の教養として、イギリス文学の歴史について基本的な知識を得る。(知識)

(2) 代表的作品の抜粋を原文で読み、鑑賞力を高める。(理解)

(3) 多様な視点から作品を読み解く力を高める。(視点、思考)

(4) 児童文学の多読により、持続的な読書の習慣を身につける。(関心、姿勢)

### 3. 今年度の新しい取り組み

今年度は授業改善のために次の2点を新しく取り入れた。1) 児童文学の多読、2) 日本語の文学史の教科書の使用。

#### 1) 児童文学の多読

平易な作品を自分の力で楽しんで読み、持続的な多読の習慣を身につけさせることを目的として、授業開始から10分間を黙読の時間に充てた。選んだ作品はロアール・ダール作『チャーリーとチョコレート工場』である。この作品を選んだ理由は、全体的に平易な英語で書かれ、工夫に富んだファンタジー児童文学であり、受講生に楽しんで読んでもらえるのではと予測したからである。

多読の英語力向上への効果については、既に Krashen (1985) 等の研究によって実証されている。

彼の研究によれば、特にリーディング力、語彙力、文法力、スペリング力の向上に効果があると言われている。さらに作品のコンテキストから、次の展開を予測する力の向上に効果があると言われている。予測する力の向上は作品を読むスピードアップにつながる。このようなことが全体的にうまく機能すれば、楽しく読むことで英語力を向上させ、多読に対して積極的な姿勢を形成できるのではと期待した。また自らの成功体験は、どんなささやかなものであれ、英語の指導へのヒントとなるのではということも期待された。

1回の授業で用意した分量は作品の8頁の分量で、B4用紙1枚に両面コピーして、毎回授業の開始時に配布した。児童文学であるので挿絵が効果的に挿入され、その絵が作品を読み解く大きな手がかりとなっていた。黙読ではあるが主体的な読解作業は一つのアクティブ・ラーニングにもなっている。また読み残した箇所は授業外で読むことで、授業外学習の時間の増加につながることも期待された。つまり単純な黙読であるが様々な可能性を持っていると予測している。

#### 2) 日本語の文学史の教科書の使用

昨年度までは英語で書かれた英文学史のテキストを使用していた。正確に言えば、英文テキストの抜粋を解説していた。3回生後期の授業ということで、より高度な専門性を意図してそのようにしていたのであるが、なじみのない専門用語が多く、そのことをわかりやすく解説するのに時間を要し、文学史の全体像、その流れ、ここの作家・作品の特色をうまく伝えることができなかった。今年度はこのような点を改善するため、さらに予習・復習といった授業時間外学習を容易にするため日本語の文学史テキストを使用した。これとは

別に重要な作品を扱う場合には、作品の原文抜粋を資料として用意し、作品鑑賞に今までより多くの時間を充てるようにした。

#### 4. 学生の評価

授業の15回目に、授業評価アンケートを行った。ここでは上記の2点に絞ってアンケート内容と結果をあげる。

##### 1) アンケート内容と結果 (回答者14名)

-----自由記述-----  
授業者の作った調査項目への評価 (一部)

- ①強くそう思う
- ②まあそう思う
- ③どちらとも言えない
- ④あまりそう思わない
- ⑤全くそう思わない

1. 多読は有意義であったと思いますか。

| ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |
|---|---|---|---|---|
| 5 | 7 | 1 | 1 | 0 |

2. 多読の教材は適切であったと思いますか。

|   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 7 | 3 | 0 | 0 |
|---|---|---|---|---|

3. 多読を今後も継続して行こうと思いますか。

|   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|
| 3 | 8 | 0 | 3 | 0 |
|---|---|---|---|---|

4. この授業は有意義であったと思いますか。

|   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|
| 3 | 9 | 1 | 0 | 0 |
|---|---|---|---|---|

5. 興味を引く作家作品があったと思いますか。

| ①  | ② | ③ | ④ | ⑤ |
|----|---|---|---|---|
| 10 | 4 | 0 | 0 | 0 |

6. 継続して作品を読んで行こうと思いましたか。

|   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|
| 7 | 6 | 0 | 1 | 0 |
|---|---|---|---|---|

7. 教員の説明は適切でしたか。

|    |   |   |   |   |
|----|---|---|---|---|
| 12 | 1 | 1 | 0 | 0 |
|----|---|---|---|---|

8. この授業の目的・目標は達成されたと思いますか。

|   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|
| 7 | 7 | 0 | 0 | 0 |
|---|---|---|---|---|

-----自由記述-----

・身近な作品 (『チャーリーとチョコレート工場』) を取り扱ったのがよかった。

・丁寧に説明してくれて作品のことがよく分かつ

た。時々映像も見せてくれたので、話が頭に入りやすかった。

・多読の成果が出たように感じた。

素晴らしい作品が沢山あることを知り、読んでみたいと思った。

・色々な作家を知れてよかった。

・多読が面白く、新たな考えや作品の面白さに触れることが出来た。

・イギリス文学作品を勉強することでとても興味がわいた。

#### 5. 今後の改善に向けて

今回の多読の導入は試行的な試みであり、どの程度受け入れてもらえるか不安であったが、アンケート項目1~3への回答からまずまずの評価を得られたことが確認できた。今後さらに多読の意義・効果の説明、教材の選択、内容理解の確認・共有等に改善を加えれば、有意義な活動として授業に取り込んでいけるのではという感触を持つことが出来た。多読は受動的な文学の授業を能動的な意味の創造に転換できる可能性を秘めているように思う。

日本語で書かれた文学史のテキストを使ったことに対しても、アンケート項目4~8への回答結果から、一定の効果があったことが確認できた。特にアンケート項目12の説明の適切さに対する高評価は予想外であった。説明力が特に向上したという実感はないが、多分説明の音声や文字によって確認できるという受講生の安心感がこのような反応に表れているのではないかと考えられる。これは日本語のテキストを使った効果だと言える。今後の課題としては、いつも19世紀で終わっているため、20世紀の作家作品までカバーすることが必要であり、そのためには全体の再構成を検討しなければならない。それともっと本質的なことは、私自身がもっと多くの作品を読みこなすこと、自分自身の作品解釈・評価を持つことが必要であるが、これは私自身の生涯のテーマでもある。